

2018-2019 年度 ガバナー公式訪問 卓話

国際ロータリー第2630地区

ガバナー 木村静之様

オープニングを生ピアノ演奏でお迎えいただき、国歌・ソングとも生ピアノ演奏でした。最近例会で生の演奏ということがほとんどなくなっているなか、さすが伝統と格式ある岐阜Aグループの合同例会であると思います。



1 まず、RI会長のテーマについてお話しします。“Be The Inspiration” 「インスピレーションになろう」です。バリー・ラシン会長はバハマのかたで、医療機関経営のスペシャリストです。バハマは、米フロリダ半島とキューバの間、カリブ海に浮かぶ島です。テーマロゴはカリブ海の荒波を表しています。「インスピレーションになろう」の意味ですが、日本語で「インスピレーション」は「ひらめき」というような意味で使い、「インスピレーションを得る」という言い方はします。英語のINSPIREは、「鼓舞する」「意欲を喚起する」という意味があります。そうすると、「インスピレーションになろう」とは、ほかの人たちに対し「インスピレーションを与える」、「何かをやろうという意欲を吹き込む」、「心に火をつける」そういう人になろう、という意味になります。先月逝去された服部芳樹パストガバナーは「燃えよロータリアン」という名訳をされました。

ラシンさんは、前向きな変化を生み出す意欲を、課題に立ち向かう意欲を、クラブからも、地域社会からも、組織全体からも、引き出したい、意欲を引き出すための「インスピレーション」になりたい、あるいはなっほしてほしいと述べておられます。

2 今年度の、私のガバナーとしてのテーマは、「理念をかかげ 意欲を喚起し 共に行動」というものです。まず、「理念をかかげ」をテーマにした理由です。世界のロータリーの趨勢が、近年、いささか「奉仕活動のロータリー」に偏っていて、理念が薄くなっている、という意見が特に日本のロータリアンから出ています。

奉仕活動のロータリー 増強、財団、寄付、プロジェクト推進を重視する面

理念のロータリー 職業奉仕、4つのテスト、例会を重視する面

私は、奉仕プロジェクトを活発に行うことは非常に大切なことだと思っています。ただ、世界のロータリーは、新興国の会員が増えてきたということもあって、「奉仕活動のロータリー」に傾いていると言えます。そのため「ロータリーの多様性」を認めざるを得ない状況で、2016年の規定審議会で大きな改正がなされました。例会は月2回でもよいとされました。当時のRI会長が「例会を何回開いたかよりも、地域社会にどのような変化をもたらしているかのほうが重要だ」と述べました。サンディエゴの国際協議会での私の体験ですが、新興国のガバナーエレクトは名刺と一緒に織物のポーチとか袋とか、名刺代わりの記念にしては立派過ぎるものをプレゼントしてくれました。先進国のロータリーから援助を引き出すことがガバナーの力量であり功績なのです。新興国の会員が増加し、先進国の会員が減少していることから、「奉仕活動のロータリー」に偏っています。そういう状況にあって、私はあえてロータリーの原点である理念を強調しなければならないと思うのです。

まず、職業奉仕の幹の中にある「奉仕の理念」をしっかりとかかげる。「かかげる」とはロータリーのモ

ットー・四つのテスト・ロータリーの目的（綱領）に表される基本理念をいつも意識して、職業生活・社会生活で実践することです。最近も、日本を代表する企業で「偽装事件」などが発生しています。「産地の偽装」とか「等級の偽装」といった事件も発生しています。我々ロータリアンの感覚からすれば由々しき問題だと言わざるをえません。

3 そして、大切なのが例会です。例会は、職業人としての倫理を向上させ、互いに切磋琢磨し学ぶ場であります。例会のプログラムを大切に、例会への出席を大切にしたい。理念の浸透を図るのは例会です。

若手会員の皆さんは仮に例会が減ったら「ラッキー」と思うか「残念」と思うか。仕事で忙しい世代は、例会に出る時間を作ることに苦勞しているかもしれません。しかし、例会に出れば先輩や友人に会えるし、顔を合わせてこそ信頼関係を育むことができるのです。「例会に出席義務」があるといいますが、義務感から出席するのではなく、楽しいことがあるから出席するというようになっていただきたい。他方、例会のプログラムを企画する側も工夫をして、例会に出席してよかったという気持ちで帰ってもらえるようにしたいものです。

これに関連して、クラブ内での研修態勢を整えることも大切です。クラブの中に「研修リーダー」を作れることを推奨したい。情報委員長との兼任でも、職業奉仕委員長との兼任でも結構なので、クラブの中で研修全般に配慮する人がいてほしい。

4 次に「意欲を喚起」ですが、その前提としてまずは「会員基盤の強化」が必要です。増強できなければロータリーは衰退します。日本のロータリーは20年前に140万人でしたが、今は90万人です。漫然と放置すれば存続自体が危うくなり、理念を広げるということも言っていられなくなります。若い世代に入っていただきたい。ラシン会長はローターアクト倍増ということも言われています。女性会員もです。今や、女性が職業を持つのも社会的な活動をするのも当たり前になっています。そうであれば、ロータリーのメンバー構成もそれに応じて多様になっていなければならない。今世界でロータリーの女性会員は20数%ですが、日本は5~6%。当地区では4.9%（三重県7%・岐阜県3.2%）。これを5年以内に15%以上にしたいと提唱されています。多様性（ダイバーシティ）は発展の基礎です。もともとロータリーは多様な職業人からなっています。もし単一の職業なら、その業種が衰退することによって衰退してしまいます。多様な人に入ってもらわなければ組織は衰退します。

増強の現実、各クラブ1年間で平均1名の増強ができていません。各クラブ1人増えれば地区全体で75人増えるのですが、現実はそのまで行っていません。よく増強セミナーで、増強のためにどうすればよいかという話が出ますが、私は、クラブの中で一人一人の会員を大切にすること、会員が奉仕に対する意欲をもつこと、クラブを魅力あるものにすることであると思います。

5 次に、意欲を喚起するにはどうしたらいいのかということです。ラシン会長は行動力のあるリーダーらしく、意欲を喚起するには「熱意を持って強く伝える」とか「自らの行動で範を示す」、ということをおられます。私は、少し視点を変えて「感動体験を話そう」ということをご提案します。ロータリーでの感動体験をお互いに話すことです。ロータリーでは、見返りはお金ではなく感動です。奉仕活動で感動したこと、職業奉仕の面でも感動したこと、そういう感動体験は自分自身の中でさらなる意欲となりますし、そのような話を聞いた人も意欲が湧いてきます。意欲を喚起することによってクラブは元気になり、充実した活動に繋がります。

6 次に「共に行動」です。奉仕活動として何をするかは、各クラブの情報収集と創意工夫です。クラブの規模は様々で、各クラブの重点の置きどころも様々ですから、各クラブでアンテナを広げ、地域社会で何か改善すべき点はないか、あるいは世界で必要とされている課題は何か、という観点で取り上げていただきたい。どんなプロジェクトをするかは、地区の奉仕プロジェクト委員会からも情報を得ることができます。「財団の地区補助金」を活用した奉仕プロジェクトは、多くのクラブで実行されています。毎年でなくても活用していただきたい。また、「グローバル補助金」は、少し規模の大きい国際的な活動をする場合に使えます。

7 グローバル補助金事業としてひとつご紹介したいと思います。R Iの2016-17年度年次報告に、当地区の中津川クラブと中津川センタークラブが行った「母子の健康」に関する事業が取り上げられました。これがR Iの年次報告書です。全28頁のなかの1頁を使って紹介されています。ブラジルのサンパウロ州で乳児死亡率が高い地域がありました。地元のレジストロロータリークラブと中津川のクラブが共同して、現地の医療施設に医療機器を提供し、住民を対象に産前ケアのワークショップの推進もしています。中津川市はレジストロ市と姉妹都市になっているというご縁だったそうです。グローバル補助金は、6つの重点分野に該当するという要件や、持続可能性という要件が必要です。現地の人たちが活動に加わるといったことも必須です。外国のクラブと一緒にやるため言語など意思疎通が難しいことがあり、失敗例も報告されていますが、地区の委員会（奉仕プロジェクト委員会、国際奉仕委員会、財団委員会）がサポートしてくれます。

事業は「持続可能性」が求められます。持続可能性 (sustainable) という言葉は、最近、国の政策で「持続可能な開発」とか「環境の持続可能性」、企業経営で「企業の持続可能性」、「持続可能なコーヒーの追求 (スタバ)」などと、よく使われます。ロータリーでは、「持続可能な変化」をもたらすような援助をすることが大切です。単に物を寄贈するだけというのではなく、現地の人も加わって、将来的に現地の自助努力でやっていけるように手を貸す、ということが大切です。「魚を与えるより魚の取り方を教える」ということです。

8 ロータリー財団は、世界では非常に高い評価を受けています。お金の使い道、使い方、透明性、いずれの面でも高い評価を受けています。時々、「財団の補助金は要件が厳しくて使いにくい」という声も聞きますが、それは、財団委員会が、ルーズな使い方にならないよう管理しているからです。財団はロータリー以外からも広く寄付を集めていますので、その意味でもルーズな使い方はできません。

9 次に「公共イメージと認知度の向上」についてお話しします。ロータリーは意外と世間に知られていません。あるいはロータリーという名前が知られていても、どんな活動をしているかは知られていません。なぜ公共イメージ向上が必要か（なぜ広報宣伝しなければならないか）というと、「いいこと」をしても知られなければ広がりがないからです。例えば、震災ボランティアに多くの人が集まりますが、それはマスコミで知らされて、「それじゃ私もやろう」となるわけです。公共イメージが向上することによって、世間から注目され、人が集まるようになり、我々の励みになります。その結果、増強にもなり、奉仕の拡充になります。方法として、奉仕活動の機会をとらえて、視覚的に伝えるのが効果的です。チラシ・パンフレット・写真・インターネット・ロータリーロゴの入った看板・横断幕などです。ロータリーの価値を物語る、ロータリーがもたらす地域社会への影響を伝えることです。その際、ロータリーの理念も伝えたい。「4つのテスト」なです。

10 “PEOPLE OF ACTION” 「世界を変える行動人」はR Iのキャンペーンです。たとえば、奉仕活動の写真を掲載する場合に「行動」をイメージできる写真にする、など提唱されています。このロゴはマイロータリーからダウンロードできます。チラシなどに使ってみてはいかがでしょうか。

11 ロータリー賞、R I会長特別賞を目指してください。昨年まではR I会長賞」といっていました。3つの戦略的優先項目に沿って項目がいくつか並んで選択するようになっていています。それほどハードルは高くないので達成可能です。目標に挑戦することによって意欲を喚起することができます。

12 ポリオ撲滅の問題があります。30年前、野生型ポリオウイルスによって麻痺障害を発症する人（子ども）は、毎年推定35万人でした。それが、ご覧のようになっていています。現在も野生型ポリオウイルスによる感染が続いているのは、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3カ国となっています。30年前と比べると、99.9%以上の減少です。3年間続けて0になれば撲滅したと言えるのですが、今年になってアフガニスタンとバングラディッシュで6月までに11件発症が確認されています。残る0.1%のポリオとの闘いが問題です。予防接種活動の妨げとなっている要因は、遠隔地、不十分な公共インフラ、紛争、文化的障壁などです。ポリオ撲滅が実現すれば、ロータリーの人道奉仕の成果として、歴史に残ることと思います。引き続き寄付のご協力をお願いします。それとともに、機会を見つけては広報をお願いしたい。「ロータリーはポリオ撲滅に力をいれています」ということと、「ポリオ撲滅まであと少し」ということを世間に知ってもらうよう広報にも努めていただきたい。

13 もうひとつは、環境の持続可能性を守ることです。ラシンさんも講演で強調していました。環境汚染は、毎年、170万人の子どもの死亡原因となっています。また、地球規模で、現在、40億人が深刻な水不足を抱えて暮らしており、地球温暖化で海面が上昇すると島国は水没してしまいます。ロータリーが、先手を打つことのできる組織となれるよう願っています。

14 日本のロータリー100周年についてお話しします。日本のロータリーは1920年に東京で創設されました。米山梅吉さんが渡米したときダラス RCの会員であった福島喜三次（きそじ）さんに出会い、帰国した福島さんとともに日本のロータリーを創設しました。以来、苦難の道も経て、日本のロータリーの歴史を作ってきました。このたび、「日本のロータリー100周年実行委員会」から、各地区に、記念の鐘（ゴング）が贈呈され、ガバナー公式訪問の際に点鐘してほしいということです。台座に2630地区全クラブの名前が創立順に刻まれています。

15 米山梅吉記念館についてお話しします。静岡県にあります。これも創立50年になります。米山梅吉さんの遺徳を顕彰し広く知っていただく趣旨で設けられました。主として地元の2620地区（静岡山梨）で支えてきましたが、50年となり大修繕の必要があることや、展示室・研修スペース・ビデオ作製などで、募金を全国のロータリアンに呼びかけています。米山奨学金の寄付とともによろしく願います。また、記念館を一度見に行ってください。

以上で私の卓話を終わります。ご清聴ありがとうございました。